

申命記 10 章 12-22 節 「主に従うこと」

12節「イスラエルよ。今、あなたの神、主があなたに求めておられることは何か」。申命記は、エジプトで奴隷だったイスラエルの民が解放され、神が与えて下さる約束の地の四十年にわたるその旅が書かれています。その旅もいよいよ終りに近づき、これから約束の地へと入って行こうとしている、それが彼らの「今」です。

イスラエルの民のこの「今」、神との関係における「今」は、私たちの「今」でもあります。私たちは今、教会の礼拝へと神によって招かれています。それは、独り子主イエス・キリストの十字架の死と復活という神が与えて下さった、救いの恵みが私たちにも与えられているということです。そしてイスラエルの民が約束の地を目指して荒れ野を旅していたように、私たちも、主イエス・キリストによって約束して下さった救いの完成、復活と永遠の命を待ち望みつつ、荒れ野のようなこの世を旅しています。イスラエルの民がそうであったように、私たちも繰り返し罪に陥ります。しかしそのような私たちを、主イエス・キリストがいつも執り成して下さっています。その執り成しのおかげで、私たちはこの主の日に、再び礼拝へと、神のもとへと招かれています。毎週の礼拝が、神による罪の赦しの恵みを確認し、新しく歩み出すために与えられているのです。このように、申命記10章12節におけるイスラエルの民の「今」は、私たちの「今」でもあります。「今、あなたの神、主があなたに求めておられることは何か」という問いは、私たち一人一人にも向けられているのです。神が今私たちに求めておられること。それが12節後半です。第一は主を畏れること、第二はそのすべての道に従って歩むこと、第三は主を愛すること、第四は心を尽くし、魂を尽くして主に仕えること、第五は主の戒めと掟を守ることです。その中で一番大事なことが、「主を愛すること」です。これは主イエスが、律法の中で最も大事な掟だと答えました。

今日は平和聖日です。81年前のあの時を、私たちは決して忘れないように、そして主の名のもとに教会は主に従って歩むことを、改めて確認する日です。14節以降に、平和聖日の今日、私たちの主が今何を求められているのかが記されていると思います。目に見えるものばかりに頼ろうとせず、主なる神の愛に応えて生きよ、と。神の選びの愛を受けた者は、罪人であるこの自分が愛を受けたのだから、あの人もこの人も、同じ神の選びの愛を受けることができるはずだ、と。そこに、弱い者貧しい者を愛し、その権利を守る、という生き方が生まれるのです。19節の寄留者とは、簡単に言ってしまうと「よそ者」です。「あなたたちもエジプトの国で寄留者であった」と語られているように、私たちも最初から神の民だったわけではありません。よそ者の私たちに神が選びの愛を注いで下さり、ご自分のもとに招き、迎え入れて下さったことで、私たちは生きることができるのです。だから私たちは、神の愛に応えて、私たちの隣人である寄留者・よそ者を愛し、受け入れ、交わりを築いていきなさい。主に従いなさい。それこそが、主が今私たちに求めておられることなのです。